

一般質問 市政を問う!!

一般質問の映像は、ホームページでご覧いただけます。



6月17日 6月16日

◎一般質問とは、議員が市政全般について市長など執行機関の考えをただし、報告や説明を求めることです。
◎ここに掲載したのは要約で、会議録に基づき議員本人が編集したものです。
◎詳細は会議録（今回の会議録は、9月上旬からホームページ、図書館、各コミセンにて公開）またはインターネット議会中継をご参照ください。

| 6月17日 | | | | | 6月16日 | | | | | 氏名 | 質問の要旨 |
|----------------------|------------|-------------|---------------------------|---------------------------------------|-----------------------------|--------------------------------|---|---|------------------|-----------------|-------|
| 古賀 寿典 | 内藤 栄治 | 馬淵 清博 | 遠藤 博昭 | 永島 幸夫 | 宮崎 稔子 | 西田 学 | 川野 栄美子 | 宮崎 貴仁 | 吉川 一寿 | | |
| 1 大川市公共施設等総合管理計画について | 2 環境問題について | 1 宝島の保全について | 1 団塊の世代と各健康保険の現状及び今後の見通しは | 1 「大川の駅」の計画について(第5弾) 2 大川市斎場利用について | 1 孤立化する女性へのつながりサポート事業設置について | 1 治水対策について 2 「大川の駅」基本計画について | 1 文化再現「漁夫晩帰」の里帰りについて <small>ぎよふばんき</small> | 1 ワンヘルス推進に向けた本市の取組について 2 次代へつなぐ文化芸術の創造と施設の維持管理について | 1 大野島校区の排水対策について | 1 次世代行政への提言について | |



大野島校区の排水対策について

吉川 一寿 議員

問 大野島は島で自然排水では内水を外に出せず毎年冠水している。強制排水ポンプ設置を要望するが早急な実現は厳しく、市独自で排水ポンプ車を配備できないか。

答 クリークの先行排水と浚渫を行い、浸水被害の軽減を図っています。必要に応じ筑後川河川事務所所に排水ポンプ車の要請を行ったり、水資源機構や市の可搬式ポンプによる排水対策を講じています。令和3年8月豪雨の際は筑後川河川事務所所に排水ポンプ車の出動を依頼し排水対策を行った結果、住宅の床上・床下浸水の被害報告はありません。排水ポンプ車の保管場所は、以前は久留米市内で保管されていましたが、現在は大川出張所で保管をされている状況もあり、今後も同様の対応を考えています。

問 このような大雨災害は頻繁に

起こる可能性が高いと考える。

答 先行排水だけでは浸水が解消しない地域もあるが、どのように対応していくのか見解と方針は。

答 大野島地区については地形が桶の状態であり、独立した堤防で囲われたところです。現在は緊急浚渫推進事業でクリークを掘って、流れをよくして、国土交通省からすぐに排水ポンプ車を配備していただくなどにより、現状、大野島地区では浸水被害が発生していない状況です。

問 大野島では農地の造成が計画されているが、貯留機能の減少による影響はどうなるか。

答 広い面積を開発する予定であり、それによって影響が出る部分については、水路の整備や排水ポンプの設置も含めて適切な排水計画を今後とも行っていきたいと考えています。



次世代行政への提言について

永島 守 議員

問 企業誘致は地方人口の減少を是正する目的の政策でもあるが大川の駅推進室との連携等は。

答 本市の経済活性化のため、多様な企業を誘致することは本市の成長に重要であり、大川の駅に隣接する民間事業用地は企業誘致に絶好の機会と捉えています。

問 基幹産業のデータベース再作成に基づく近年の大川インテリア振興センターの活動経過と成果は。

答 活動実績の情報活用は、商品や木工の歴史を紹介する動画や大川ならではのSDGsの取組等をHPやSNS等で公開しています。

問 大川の駅推進室と企業誘致推進室との連携政策協議について。市長の不転の決意で決定が下された事業にもかかわらず、いまだ案内看板もない。活動範囲の広域化、加速化を図るべきではないか。

答 大川の駅は環有明海経済圏

の構築を目指すものであり、目的の実現は民間協力なしでは達成できず、民間事業用地取得を含め、企業誘致推進室とは密に連携し、進めていきたいと考えています。整備運営は、民間事業者の柔軟なアイデア、意見を取り入れ、民間事業者の参画を促したいと考えます。

問 大野島大角樋門改修工事完成により、内水面上昇は回避され、床下浸水被害も見受けられないが、「大川の駅」施設用地内の雨水浄化槽汚水処理対策について伺う。

答 豪雨時には河川事務所排水ポンプ車の出動を要請し、大角樋門の完成により、昨年よりポンプ配置を大角樋門から大下樋門へ変えた結果、床下浸水被害報告はありません。大川の駅計画区域の排水処理計画は造成基本計画に基づき、排水ポンプ設置を含めて最適な排水処理対策を検討します。



ワンヘルス推進に向けた本市の取組について
次代へつなぐ文化芸術の創造と施設の維持管理について

宮崎 貴仁 議員

問 3月定例会の一般質問で、本市のワンヘルス推進宣言へ向けた見解をお答えいただいたが、その後の進捗状況と具体的取組内容は。

答 理念の周知と普及を図るための講演会や推進宣言に向けて日程等を現在調整しており、今後もSDGsの視点も入れ、大川らしさをもって推進していきます。

問 伝統文化や地域における神社等の祭祀を次代へつなぐため、子どもたちにその文化に触れる機会や体験の場を創出し、その記憶を大切にすることが、本市の文化の振興や保存につながるものと思うが、そのための取組は。

答 文化芸術は心豊かな社会の実現に大きく寄与するものと考えています。コミュニティ・スクールの中で地域学校協働活動として、地域の宝物や資源を活用する事業を教育課程の中に位置づけて、ま

た学校と地域が一緒になり、地域の担い手づくりに取り組もうと考えており、各学校で今実践を続けています。心豊かな人生を送るため、文化芸術のより多くの機会をつくっていききたいと思えます。

問 文化センターは、土日は開館日であるにもかかわらず、現在は職員が不在である。その勤務体制に関してどのようにお考えか。

答 利用者の利便性から土日は職員を配置すべきと考え、近いうちに変更していきたいと思えます。

問 座席等の利便性が良い新しい文化施設が近隣にできており、文化センターの一般利用の減少も見込まれる中で、本市は今後どのように維持するつもりか。

答 職員や団体の方々とも協力し、アイデアを出し合い、利用者の確保に努め、長寿命化計画を踏まえ必要な改修工事を行っていきます。